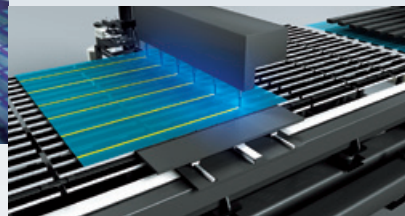




BUSINESS REPORT

第24期 株主通信

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日



CONTENTS

ごあいさつ	P1
事業紹介	P3
これまでの歩みとこれから	P5
経営理念と サステナビリティの概要	P7
財務ハイライト	P9
株式の状況	P10

株式会社ブイ・テクノロジー
(証券コード:7717)

イノベーションで 想像を超える 未来へ

代表取締役 兼 社長執行役員
杉本 重人



2021年3月期 連結業績のご報告

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大等の影響を受け、全体としては1年間を通して厳しい状況が続きましたが、いち早く経済活動を再開した中国は回復しており、大規模な景気対策がなされた米国は持ち直しています。日本は、様々な景気対策がなされたものの新型コロナウイルス感染症の再拡大等の影響を受け、先行き不透明な状況が継続しました。

フラットパネルディスプレイ(FPD)装置事業においては、新工場立上げが中国で再開され、据付作業は、概ね計画通り順調に推移しました。また、世界的なりモートワークの拡大と巣ごもり消費を背景とした既存LCD生産ラインの増強や、中小型OLED、並びに次世代FPDに関連した複数の引合いが確認されました。

一方、半導体装置においては、世界的な半導体不足などを背景とした様々な需要の増加が確認されました。

当連結会計年度の当社グループの連結業績につきましては、売上高は551億8千6百万円(前年同期売上高543億2千

2百万円)、営業利益は66億4百万円(前年同期営業利益56億5千3百万円)、経常利益は68億3千6百万円(前年同期経常利益61億5千6百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は35億1千3百万円(前年同期親会社株主に帰属する当期純利益32億5千1百万円)となりました。

当連結会計年度の当社グループの受注金額は、369億8千万円(前年同期225億3千2百万円)となりました。この結果、当連結会計年度末の受注残高は409億3千9百万円(前年同期591億4千5百万円)となりました。

今後も株主の皆様のご期待に添えますよう、大いなる志と溢れる情熱で、世界最高のイノベーションを創造し社会に貢献していく所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月
代表取締役 兼 社長執行役員 杉本重人

社長インタビュー

2022年3月期の業績予想と事業環境について教えてください。

新型コロナウイルス感染症を契機に様々な分野でデジタルトランスフォーメーション(DX)が加速しています。また、米中間の対立が先鋭化し、各国の産業政策は大きく変化しようとしています。幸運にもハイエンド、ローエンド問わず半導体に対する需要は高い。製造装置市場の成長は続くと思われ、我々のビジネスにも当然プラスに働いています。

一方、5Gの普及が進み、人とデバイスを繋ぐ次世代インターフェイスに関わる技術開発が進んでいます。最近では、フォルダブルなスマートフォンも機種が少しずつ増えてきました。DXの加速により、TVやノートPC・タブレット用のディスプレイに対する需要は堅調です。ディスプレイ製造装置の市場は22年から再び拡大すると見込んでいます。

22年3月期は、ディスプレイに続く第2の柱として半導体分野の装置が収益に大きく寄与します。売上高は600億円(前年比+8.7%増)、営業利益は72億円(前年比+9.0%増)を予想しています。

半導体と農業分野での取り組みについて教えてください。

半導体分野では、各子会社が持つユニークな技術やビジネスモデルと、当社がディスプレイでこれまで培った強みをうまく合わせて、新しい事業に挑戦し、もっと色々な事業を成功させたい。M&Aにも積極的に取り組んでいきます。ただ、半導体やディスプレイ分野のビジネスは国際情勢、投資や景気の循環による影響を受け易い。この分野だけでグループを安定的に成長させ続けるのは長い目で見ると難しいし、リスクをヘッジできる事業構造に変えていく必要があります。

創業以来初めて、電子デバイス分野を超えて、農業分野でのビジネスに挑戦します。農業は、人の食の営みや健康に直接関わる産業です。サステナビリティの点からも、挑戦する価値が高い。産業の裾野が広く、国や地域ごとに求められるソリューションは大きく異なります。まずは、当社のリソースが活用できるところから始めていきます。

株主の皆様へメッセージ

半導体や次世代ディスプレイに関わる新しい挑戦をこれまで重ねてきています。これらを成長軌道に乗せると同時に、農業分野での新しい挑戦を必ず成功させたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



> 半導体製造装置

最先端のウェーハやデバイス製造に貢献する製品ラインナップを取り揃えています。

シリコンウェーハ製造

●ウェーハ検査装置

プライムウェーハ用検査装置として高いシェアを誇るナノシステムソリューションズ製の装置です。



●ウェーハ研磨装置

200mmおよび300mmウェーハに対応し、生産性とコストパフォーマンスに優れます。



半導体デバイス製造

●半導体マスクライター

レガシー半導体用のフォトマスク製造に用いられる、ナノシステムソリューションズ製の描画装置です。



●自動レジスト塗布/現像装置

半導体材料のR&D用として設計されたリソテックジャパン製の装置です。



●ICテスター

メモリー等の半導体デバイスの検査を行います。



> 部材・サービス

ディスプレイの進化を支える、付加価値の高い部品・材料・サービスを提供します。

スマートフォン用FPD製造 (OLED)

●OLEDサルベージサービス

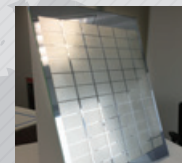
欠陥があり出荷が困難なスマートフォン用OLEDを再生するサービスです。

サルベージ装置



●OLED用蒸着マスク

使いやすく、高精細で軽量、大型基板に対応する製品として開発中です。縦型蒸着装置へ適用可能です。



> FPD 製造装置

TVからスマートフォンまで、全てのディスプレイ生産に不可欠な代表的な製品をご紹介します。

TV・PCモニター用ディスプレイ製造

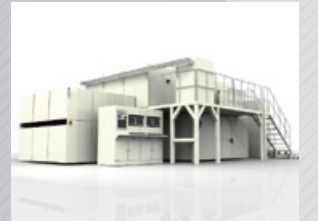
●大型ガラス基板露光装置

大型FPD用カラーフィルター製造に用いられる、世界シェア90%以上を誇る、露光装置です。



●光配向露光装置

配向膜という機能性高分子膜を、特殊な紫外線と小型のフォトマスクを用いて形成します。



タブレット、スマートフォン用ディスプレイ製造

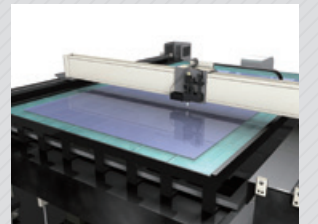
●欠陥修正装置

TFT基板、カラーフィルター基板上の欠陥を修正する装置です。(世界シェア50%)



●精密座標測定装置

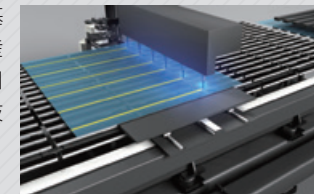
ガラス基板上に形成される画素の位置やサイズを測定します。(世界シェア90%)



次世代FPD製造 (MiniLED / μ LED / OLED)

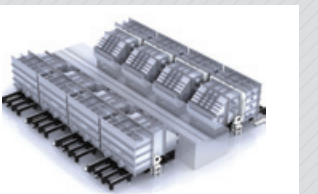
●レーザーアニール装置(開発中)

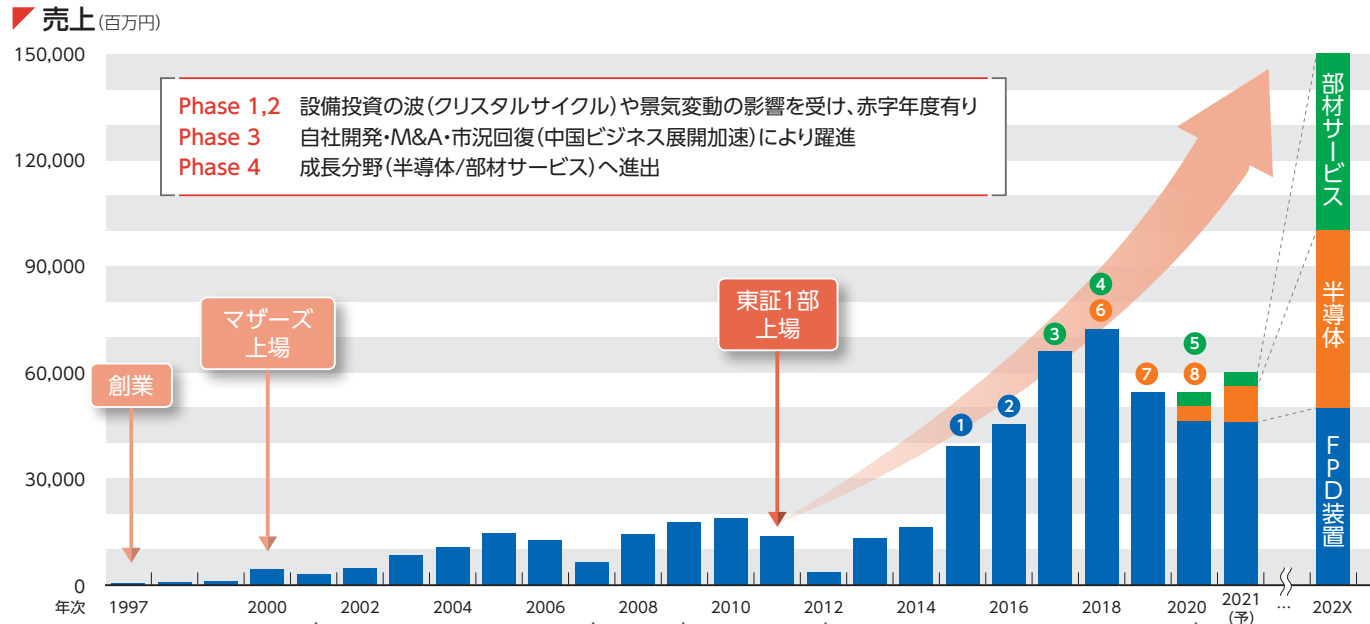
MiniLED用TFT基板の効率的な生産に寄与することを目的として開発中の技術です。



●縦型蒸着装置(開発中)

G6フルサイズのガラス基板に対応する縦型蒸着装置です。当社製の蒸着マスクを用います。





事業分野

半導体

ウェーハ検査トップのNSS(ナノシステムソリューションズ)、中国合併会社のZ-CSET他、グループ全体でお客様にソリューションを提供します。

- ⑥ Z-CSETでICテスト/ウェーハ研磨装置事業を開始。
- ⑦ NSSを子会社化しウェーハ検査装置およびマスクレス露光装置事業に参入。
- ⑧ リソテックジャパン社を子会社化。

部材サービス

中小型OLEDの製品歩留りと品質の改善に貢献する、独自の技術とサービスの提供を目指しています。

- ③ VETを設立しOLED用蒸着マスク市場に参入しました。
- ④ 有機EL照明(Lumiotec)および有機材料(FLASK)事業に参入しました。
- ⑤ 中小型OLED良品化サービスを提供するVSCを中国ファンドと設立、2020年4月より営業開始しました。

FPD装置(コア事業)

創業から大型FPD製造に強みと実績があります。Phase3期に躍進、多彩な人材と技術が集結、レーザーアニール装置等の新製品開発を加速しています。

- ① NSKテクノロジー社を子会社化し大型ガラス基板露光装置事業に参入しました(市場シェア90%以上)。
- ② OHT社を子会社化/非接触電気検査装置事業に参入しました(市場シェア50%以上)。

事業トピックス

Case 1 リソテックジャパン社を子会社化 (2021年1月)

同社は、1993年の創業以来培ってきたリソグラフィ技術をコアとしたプロセスの評価解析装置・製造装置・露光解析ツール・シミュレータといったソリューションを、最先端の半導体デバイス分野からパワーデバイス・化合物半導体・MEMSおよびナノインプリント等といった、様々な微細加工に携わるお客様にお届けしてきた研究開発型の企業です。

微細加工分野においてレジスト塗布から現像・ポストバークといった各種プロセスを一貫してカバーする同社独自の評価・製造システムに対するお客様の評価は高く、当社は、同社の事業の更なる成長を後押しすると同時に、同社の知見を活かした露光装置等の開発を進め、当社グループの半導体分野での事業の成長を目指します。



LITHOTRAC[®]
自動塗布現像装置

Case 2 大手メモリーメーカーからのテスター受注 (2021年3月)

当社グループは、2018年3月に中国資本と合併でZ-CSET社を設立し、半導体装置事業の第一弾として、ウェーハ研磨装置の事業を開始しました。また、同年の11月にその第二弾として、イノテック株式会社と半導体メモリー用テスター事業についての業務提携契約を締結し、Z-CSET社に出資いただくと同時に、中国のメモリーメーカー様に最先端のテストシステムの提案を重ねてまいりました。

今回の商談においては、イノテック社の技術力と当社グループのきめ細かい顧客サポートが高く評価され、受注に成功いたしました。今回の受注を機に、今後もイノテック社およびZ-CSET社と協力し、中国市場におけるテスター事業の更なる拡大を目指します。

Case 3 IDW2020にてレーザーアニール技術の発表を行いました。(2020年12月)

MiniLED、OLED、 μ LED等の次世代ディスプレイ等、シリコンを用いたデバイス製造に貢献する、レーザーアニール技術の研究開発に日夜取り組んでいます。この度、各種デバイスに最適な結晶状態を持つシリコン膜の製造を可能とする、青色半導体レーザーを用いたレーザーアニール技術についての発表を、IDW2020のVirtual Conferenceにて行いました。本講演では、コストパフォーマンスに優れたユニークなレーザーアニール光学系による、多結晶構造から単結晶構造までのシリコン結晶性制御の一例として、電子移動度に優れたシリコン単結晶化技術をご紹介し、デバイス開発に携わられる各国の技術者から多くの反響を頂戴しました。



サステナビリティの視点から、
会社の持続的成長と経営理念の実現に取り組みます。

経営
理念

大いなる志と溢れる情熱で、
世界最高のイノベーションを創造し、
社会に貢献します。

経営方針

独自の強みで、規模の拡大と収益の安定化を実現し、
世界有数の製造ソリューションプロバイダーを目指します。

事業ポートフォリオ

FPD
製造装置

半導体
製造装置

部材・
サービス

農業・他

サステナビリティ

「大いなる志と溢れる情熱で、世界最高の
イノベーションを創造し、社会に貢献します。」
という基本理念のもと「持続可能な社会の実現」と
「グループの成長」の両立を目指します。

役職員行動指針
(ガバナンス基盤)

1. 気迫をもって臨んだか?
2. 誠意に反することなく、言動に
恥じることはなかったか?
3. 十分に努力し、最後まで全力で
取り組んだか?

サステナビリティ関連トピックス

環
境

中小型OLEDの再生事業

2020年4月1日に不良パネルを良品化する「サルベージサービス」をお届けするために、中国昆山市に[V-Tech Shining Color Technology (Kunshan) Co., Ltd] (以下、VSC) を設立し、本社工場(写真左)にて本格的なサービスの提供を開始しました。



本社工場



サルベージ装置

社
会

西条市 次世代スポーツ支援事業

西条市総合体育館にて開催された柔道教室にて、ブイ・テクノロジー女子柔道部の宇高選手兼監督が、約50人の生徒を前に講師を務めました。

教室は、市と市のスポーツ協会が次世代スポーツ選手の育成を目指す事業の一環で開催されました。



ガ
バ
ナ
ン
ス

株式報酬制度の導入

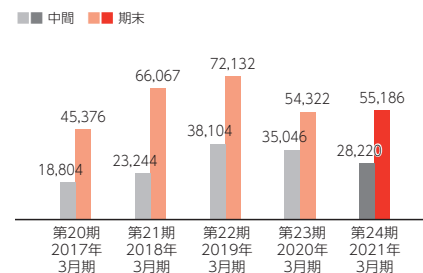
中長期的な業績の向上と企業価値の増大への意識を高める為に役職員に対する株式報酬制度を導入いたしました。取締役(社外取締役を除く)の報酬と株式価値の連動性を明確にし、株価の変動利益やリスクを皆様と共有します。

指名・報酬委員会の設置

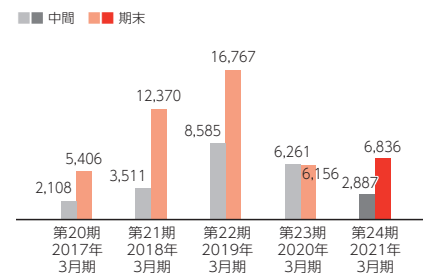
取締役の指名・報酬等に係る取締役会の機能の独立性および客観性を強化し、コーポレートガバナンスの更なる充実を図るため、取締役会の諮問機関として本委員会を設置いたします。

財務ハイライト(連結)

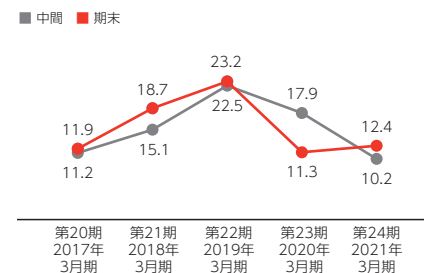
売上高 (百万円)



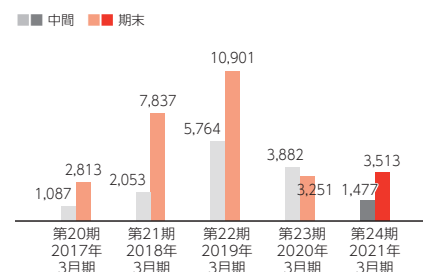
経常利益 (百万円)



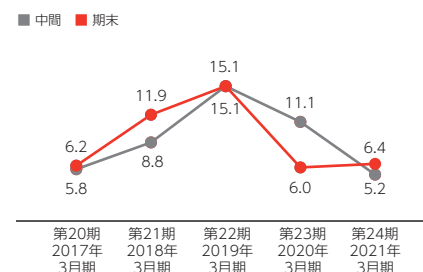
経常利益率 (%)



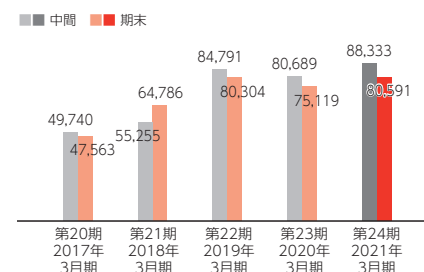
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



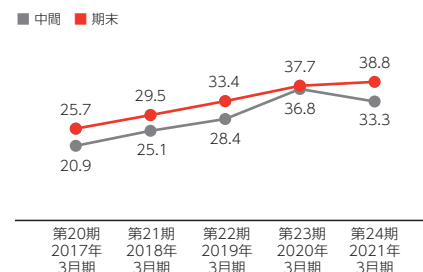
親会社株主に帰属する当期純利益率 (%)



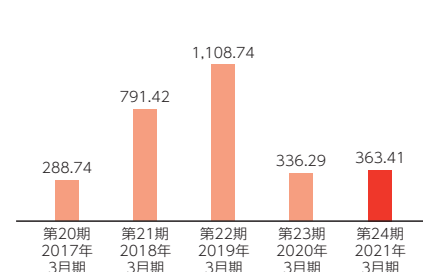
総資産 (百万円)



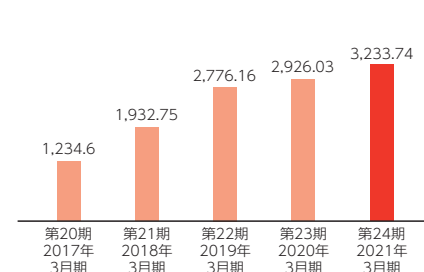
自己資本比率 (%)



1株当たり当期純利益 (円)



1株当たり純資産 (円)



株式の状況 (2021年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 35,180,600株
- 発行済株式総数 10,057,600株
- 株主数 8,659名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数	持株比率
杉本重人	1,174,600株	12.0%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	681,600株	7.0%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	533,300株	5.4%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	165,580株	1.7%
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	143,400株	1.5%
JPMBL RE NOMURA INTERNATIONAL PLC 1 COLL EQUITY	132,166株	1.3%
株式会社日本カストディ銀行(信託口6)	127,400株	1.3%
株式会社日本カストディ銀行(信託口1)	116,300株	1.2%
JP MORGAN CHASE BANK 385781	108,127株	1.1%
株式会社日本カストディ銀行(信託口2)	95,200株	1.0%

当社は自己株式256,135株を保有しておりますが、上記から除いております。また、持株比率は自己株式(256,135株)を控除して計算しており、小数点第2位を四捨五入して表示しております。

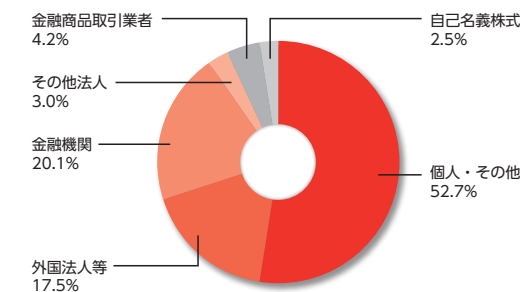
株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
 - ・期末配当金 3月31日
 - ・中間配当金 9月30日
- 配当金受領株主確定日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 - ・同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード 7717)
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <https://www.vtec.co.jp>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● 株式所有者別分布



会社概要 (2021年3月31日現在)

社 名 : 株式会社バイ・テクノロジー
設 立 : 1997年10月16日
本 社 所 在 地 : 横浜市保土ヶ谷区神戸町134 横浜ビジネスパークウイーストタワー9F
TEL : 045-338-1980 FAX : 045-338-1781

取締役会

代 表 取 締 役	杉 本 重 人
取 締 役	天 日 和 仁
取 締 役	神 澤 幸 宏
取 締 役	城 戸 淳 二
取 締 役	西 村 豪 人

※城戸淳二および西村豪人は社外取締役です。

監査役会

常 勤 監 査 役	中 原 有 庸
監 査 役	大 倉 修 和
監 査 役	住 田 勲 勇
監 査 役	宇 田 賢 一

※大倉修和および宇田賢一は社外監査役です。

執行役員

社長執行役員	杉本 重人
常務執行役員	米澤 良
常務執行役員	天日 和仁
常務執行役員	神澤 幸宏

執 行 役 員	天野 勇
執 行 役 員	水村 通伸
執 行 役 員	松元 康博
執 行 役 員	伊藤 行男
執 行 役 員	大淵 一人
執 行 役 員	飯野 仁
執 行 役 員	田口 和明

執 行 役 員	永井 一馬
執 行 役 員	張 尚敦
執 行 役 員	後藤 順
執 行 役 員	菅井 健
執 行 役 員	羽森 寛
執 行 役 員	芳賀 一実

WEBサイトのご案内

IR関連のニュースリリースや各種IR資料がご覧いただけるほか、新事業やESG等の取組みについて多数掲載しています。ぜひご覧ください。

TOPページはこちら



IR情報ははこちら

